校長室だより
No.　7
平成 30 年 5 月 18 日(金)

強く　やさしく

六ツ美中部小学校校長
加藤嘉一（かとうよしかず）

第１回研究授業に臨む　－　６年家庭科「最高学年として清掃の仕方を見直そう」－

【５月１６日(水)６の２家庭科研究授業】

連休明けから体育祭の練習が始まっていますが、学校行事だけでなく、授業研究もわたしたちは力を入れていきます。その一つとして、今週の水曜日に美合小の原田真弓先生（岡崎市家庭科指導員、昨年度本校初任者研修指導教員として勤務）に来ていただき、６年２組家庭科の授業について研究協議会を行いました。

平成 32 年度に新学習指導要領（学校教育法等に基づく教科書のもとになる基準）が完全実施されます。新学習指導要領の目玉は、「主体的・対話的で深い学び」の実現です。わかりにくいですね。子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするための学びです。今回の家庭科でいうと、「学習内容」＝「清掃についての見方や考え方」です。

主体的・対話的で深い学びを目指すために、本年度は「振り返り」の場面を切り口にし、研究することにしました。子供が授業を通して、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、資質・能力を身に付け、能動的に学び続けようとする姿に結び付いていくかどうかを、振り返りの場面や子供の記録（授業日記や感想等）から検証し、どういう授業にすべきかを議論したいのです。

青山先生は、子供の清掃についての見方や考え方を広げ深めるために、以下のような手立てを考えました。

①「最高学年としての清掃」という特別な意識をもたせること
②自分たちの清掃をもう一度見直させること
③廊下清掃を共通体験したうえで、どう工夫するとよいか検討する場をもつこと
④対立する意見を見いだし取り上げること
⑤自分の清掃場所や家庭での生活をどうするか、再度見直す機会を設けること　【青山先生の考えた手立て】

今回は、①～③の手立て後の授業場面です。子供たちは床等をきれいにする道具・洗剤等の効果を発表していくうちに、道具や洗剤を積極的に使いたいという考えと、環境のためには使わない方がよいといった考えとが対立していきました。話し合い終盤には、洗剤等の使う量を決めれば環境にも貢献できるといった

【振り返りの記録より】
ぼくは、きれいになるなら（洗剤やアイデアグッズを）使ったほうがいいと思うけど、無駄使いせずに最低限の量できれいになるなら少しの量で道具は十分だと思いました。掃除に使うものは使わないともったいないけど、他の事にも使えるものを掃除に使うのは余ったものなどがいいと思いました。学校のものできれいによごれが落ちる方法も考えないといけないなと思いました。（男子）

考えが生まれていました。前頁の振り返りの記録の子は、「無駄使いせずに」「学校のものできれいによごれが落ちる方法も考えないといけないな」と、これまでになかった「環境」の見方や「自分にできる工夫」といった考え方で能動的にとらえ直し、清掃の見方や考え方を広げ深めています。

深い理解、能動的に学び続ける姿は、１時間、１教科の授業だけで十分身に付くと考えていません。今後も多くの授業・教科で研究していきます。

本年度の重点目標　その３

☆マーク、下線（波線）が入っている部分は本年度新規取り組みたい事項

本年度の重点努力目標

ウ ちゅうぶがだいすきな子を育てる

・学習内容と育むべき資質・能力を再編成し、岡崎市と中部学区の歴史・伝統・文化を素材とした特色あるカリキュラムの研究・開発を図る。

〇ESD カレンダーを利用した教科横断的学習のカリキュラム作り（各学年）
〇地域副読本「なのはな」改訂版の活用
〇地域交流センター悠紀の里を利用した学習（３年社会科）
〇学区の昔のくらしの学習（３年社会科・総合）
〇学区と福祉の学習（５年総合）
〇学区の未来を考える（６年総合）
☆四季折々の植物を利用した冠、笛作りなど（２年生活科）
☆ゲストティーチャーの活用（保健学習など）

・地域の人から学ぶ活動や、地域の人とともに行う活動、地域の自然を見つめたり、自然の中で体験したりする活動を大切にする。

〇地域教育ボランティア「ちゅらぼ」システムの充実（人的整備）
〇おやゼミの充実
〇社会科・総合的な学習の地域講師招聘（授業）
〇田植え・稲刈り・苗（さつまいも等）植え・収穫祭等の工夫
〇まちたんけんの充実（２年生活科）
☆昔遊び（１年生活科）
〇花育・FBC 参加とデザイン募集全校参加（委員会・常時活動）

・学級活動、委員会活動、ペア交流、兄弟学級・保育園・中学校等との異年齢交流において、子供の主体的、意欲的な活動を展開する。

〇各活動組織が活用できる集会の時間の確保
☆ペア活動の実践・研究（弁当、全校交流の日、縄跳び、読書郵便など）
☆掲示による足跡作り
〇ペア学年交流の研究（1・6 年、2・5 年、3・4 年交流）
〇学年・委員会主催の縦割り交流（集会）
〇苗植え・収穫祭・避難訓練等保小中交流行事の充実
〇子供の発想を生かした集会・放送の時間の確保（集会・放送）
☆保小交流の充実（１年ほか）